



でした。ねっしんな源太郎の努力が実を  
むすんで、須賀川の牡丹園は、年々有名  
になっていきました。

さらに源太郎は、牡丹の花ばかりでな  
く、俳句にも力を入れ、たくさん弟子  
を育てました。そのため、より多くの人々  
に深い尊敬を受けることになりました。

大正時代のはじめ、五月のことでした。  
ふと見ると、きれいに咲いた牡丹を一本  
一本ていねいに見ている人がおりまし  
た。その人はただ見ているだけでなく、  
ぼうしをぬいで牡丹に手を合せておが  
んでいるのです。そのすがたを母屋おもやから見